

平成26年

二級建築士試験
合格者座談会

■井澤 皆さん、2級建築士合格、本当におめでとうございます。神庭さんは学科、製図ともTACに通われて、見事一発で合格されていますね。

神庭 実は私が本腰を入れて学科の勉強をしたのは試験直前の1ヶ月だけなんです。その1ヶ月間は、平日2～3時間、週末は6～8時間、本気でやりました。

■井澤 使ったのはTACの教材だけですか？

神庭 電車の中で手軽に勉強できるかなと、スマホ用の1問1答問題集もやってみました(笑)。まあでも、会社で部下に「試験を受けるぞ。合格するぞ。」と言っていたことが、モチベーションになったかなと思います。

■井澤 なるほど。神庭さんは、学科、製図を通して一度も欠席せず、法令集の線引きなど、こちらが指示したことは必ずやっていたよな。そうした土台があったからこそですよ。

神庭 直前期以外は体験談にならないレベルですが(笑)。

■井澤 齋藤さんは、学科試験はいかがでしたか？

齋藤 私は学科は独学でした。歳のせいか、覚えてもすぐ忘れちゃうので本当に苦労しました。なので、暗記用のノートを1冊作り、自分へのペナルティとして、間違えた問題を書き写すことを自分に課しました。

■井澤 そのペナルティは過酷ですね。

●聞き手

TAC建築士講座
井澤 真悟 講師TAC建築士講座
清田 和歳 講師

齋藤 過酷じゃないとペナルティになりませんからね。しかも、丁寧に書き写すと決めて守りぬきました。

■清田 その苦労が実ったんですね。須之内さんはいかがですか？

須之内 私も電車の中で勉強を大切にしました。「絶対に椅子に座らない」と決めてやりました。座ったら絶対寝ちゃいますから。

■清田 電車の中では問題集ですか？

須之内 ええ、ただ問題集は2度、3度と解いていると、問題を見ただけで解答がどれか分かるようになってしまうので、問題集を後ろから解いたり、2問おきに解いたりという工夫

をして解きました。

■清田 みなさん様々な工夫をされてるんですね。佐藤さん(仮名)はどうですか？学科、製図ともにTACに通学して一発合格されていますよね？

佐藤(仮名) 私は構造力学が本当に苦手で、解けるようになったのは試験直前です。先生にマンツーマンでわかるまで教えていただいたことが糧になりました。

■清田 佐藤さんのように力学が苦手な方は多いので、是非アドバイスをいただきたいのですが。

佐藤 アドバイスではありませんが、私は同じ問題を何回も解いて、**解法のパターンを覚えた**ことで、本試験は問題集の数値を変えただけ、という感覚で解くことができました。

■清田 なるほど。佐藤さんは講義が終わった後、僕のところに熱心に質問に来たことをよく覚えてます。皆さん、自分の欠点を克服する工夫と努力をしっかりとやっていますね。次は製図の話聞かせてください。

神庭 製図の本試験では、終了間近になって延べ面積オーバーに気が付き、ギリギリで無理やり修正したという状況でしたが、なんとか合格できました。

■井澤 神庭さんは、学科の直前期の学習といい、製図の終了間際といい、土壇場に強いですね(笑)。

神庭 いやあ、土壇場だけじゃないですよ。TACの課題添削で減点されていた項目をまとめ、自分だけの「**忘れやすいものリスト**」を作り、本試験に備えました。また、私は部分詳細図(矩計図)が苦手だったので、

電車の中で方眼紙に部分詳細図をフリーハンドで描いて克服しました。

■井澤 そうした準備が土壇場でモノをいうのかもしれないですね。齋藤さんは製図試験はいかがでしたか？

齋藤 私も部分詳細図が苦手で、仕上材料名などの書き忘れが多かったので、基礎、2階床組、屋根ごとに仕上材料名などをいくつか書かなければいけないかという、**項目の数をまずは覚えて**、書き忘れを防ぎました。

■井澤 それも大切な工夫ですね。

齋藤 ええ、ただ本試験ではエスキスに時間がかかってしまい、時間

が足りなくなったのですが、先生から完成させないと絶対合格できないと口すっぱく言われていたので、無我夢中で答案用紙を埋めてきたという状況でした。

清田 それまで培った実力でねじ込んだ感じですね(笑)。

■清田 それでは、TACについて聞かせてください。須之内さん、どうしてTACを選びましたか？

須之内 私は課題発表後の説明会の時に清田先生と実際に会って、この人に教えてもらいたいと思ってTACを選びました。

■清田 何も出ませんよ!(笑)

でも須之内さんは、本当によくがんばりました。最後の最後まで図面を添削して欲しいと、試験日の数日前にも私のところにわざわざ図面を持って来ましたよね。あの気力は本当に大切で、「あ、彼は受かるな」とその時確信しました。苦労した点は？

須之内 最初の数回は本当に辛かったです。平面図だけで4～5時間、一式描くの丸一日がかり、なのにボロボロの図面。それでも作図時間表に時間を記入し続けると、**どんどん早くなっているのが目でわかって**、それが嬉しかったし、楽しかったです。最後まで添削の赤字がなくなることはなかったですが(笑)。

■清田 小さな技の積み重ねと作図練習で、どんどんスピードが上がるんですね。楽しめたら勝ちです!僕もできるだけ楽しめる講義を目指していますので。佐藤さんはいかがでしたか？

佐藤 私も製図では部分詳細図が苦手だったので、ひたすら描いて身につけました。それと、TACの課題の数は、私にはちょうど良かったです。仕事をしながらだと時間もなし、たくさんあり過ぎたらくじけてたかもしれません。

■清田 そうですね。たくさんのパターンの課題を数多くやることは、2ヶ月しかない勉強期間では非効率なんです。基本的な課題に絞って、考え方の基本をマスターすることが合格への最短距離です。テキストはいかがでしたか？

佐藤 学科のテキストと違って、薄めで良かったです(笑)。内容がコンパクトに凝縮されていて分かりやすかったです。

■清田 それはよかったです(笑)。それでは皆さん、最後にこれから合格を目指して学習を始める方にアドバイスがあればお願いします。

神庭 井澤先生から言われたことですが、「もう二度とこんな勉強はしたくない」と強く思った人間が合格できるのは、まさに本当だと思います。

齋藤 私も井澤先生から「合格しなければただのアシスタント」と言われ発奮しました。

須之内 **自分に合った先生を見つけて**ください。どんな参考書を読むよりも役に立つし、自分のモチベーションにも繋がると思います。

佐藤 絶対に一回で合格しようと、お付き合ひ等は断って学習に専念しました。そのくらいの覚悟は必要だと思います。清田先生には合格後も活かせることを、雑談を交えて細かく具体的に教えてもらいました。これからの仕事にも活かしていきたいと思います。

■井澤 ありがとうございます。皆様の貴重な体験を心にとめておきたいと思います。

■清田 そうですね。僕たちも、こうしたお話を聞き、次年度以降の講義に生かしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。



合格者PROFILE (左より)

神庭 輝幸さん(37歳)学科2回、製図1回で合格/LED照明の設計・提案・施工/渋谷校

須之内 新さん(25歳)学科2回、製図1回で合格/元不動産関連勤務/八重洲校

佐藤 桜子さん(仮名・26歳)学科1回、製図1回で合格/オフィスの内装設計/八重洲校

齋藤 清久さん(57歳)学科2回、製図1回で合格/広告宣伝物の企画・制作/渋谷校